

## 職員室への「ガサ入れ」にびっくり

旧職員 須田久重

昭和四十九年より昭和五十四年まで六年間お世話になった山城高であつたが、昭和五十五年三月より新設高の教頭として急に転出が決まり、二年間ほど山城高とは縁切れとなつた。その後、昭和五十七年三月に前任の校長・教頭共々に他校に転補となつたからお前は元の職場に帰れと呼び戻され、再び教頭として山城高赴任となつた。校長共々管理職の水平異動で、校長も近隣高からの転補である。私は山城高の前身京三中が母校であるから、再度のお勤めは誠に因縁深いものであつた。

着任一カ月を経たある日曜日の朝、校長さんから唐突に電話を戴き、今京都府警から迎えの車が来ている。私も乗っていくから、君も同行して欲しいとの要請である。何のことかよく判らない。とにかく「承知しました。どこどこで落ち合います」と電話を切ると身支度を整えてその車を待った。京都府警と書

いた車に同乗、学校に向かった。車中の話では山城高の家宅捜索（ガサ入れ）が行われるということである。教職員の選挙違反容疑であるらしい。組合推薦の候補者に投票依頼文書を本校OBの有権者宛に送付したのは公務員の地位利用による公職選挙法違反行為に当たるというのである。職員室の組合員個々の机の中まで克明に調べ、その間管理職は立ち合わされたがその時は難なく引き揚げてもらえた。しかし後刻、ある女教諭が嫌疑濃厚と西陣署に連行され一定期間の拘留の身となってしまった。その間、組合はその不当を叫び、毎日のように広く動員をかけ、他校の組合員も交えた大勢が西陣署前でのシュプレヒコールで拘束の不当をなじり、収監されている本人の激励を繰り返した。

その間、校長は府警本部、教頭は西陣署への任意同行を求められ、取り調べが続いた。生まれて初めての経験である。署の取り調べ室で、被疑者第何号という椅子に座らされ刑事の尋問を受けたのは一。

私は着任一カ月では校内事情にも疎く、全体を掌握していない不明を繰り返し、調書に署名押印して二時間ばかりで解放された。

かくなる上は辞表を懷にして覚悟の背水の陣である。腹をくくった。教員の拘束による授業の空白で生徒への影響が案じら

2. 環境問題の解決には、環境意識の向上が不可欠である。環境意識の向上には、環境教育が重要な役割を果たす。環境教育は、環境問題の理解を深め、環境保護の行動を促す効果がある。環境教育は、学校教育だけでなく、社会教育としても実施されるべきである。環境教育を通じて、環境問題の解決に貢献できる人材を育成する必要がある。

3. 環境問題の解決には、環境政策の整備が不可欠である。環境政策の整備には、環境法の制定や環境規制の強化が重要である。環境政策の整備を通じて、環境問題の解決に貢献できる。環境政策の整備には、環境問題の現状や将来の展望を踏まえ、科学的根拠に基づいた政策を制定することが必要である。

